

2016年1月15日

**「知的財産権濫用に関する独占禁止指南(意見募集稿)」  
に対する修正提案**

国家発展改革委員会 御中

平素より貴局におかれましては、日本企業への多大なご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

日本国ビジネス機械・情報システム産業協会 (<http://www.jbmia.or.jp/english/index.php>) は、ビジネス機械とそれに付随する情報システム産業の総合的な発展、並びにその改善合理化を図ることにより、経済の発展とオフィス環境の向上に寄与することを目的とする業界団体であり、現在52社の会員を有しております。

今般公表されました「知的財産権濫用に関する独占禁止指南(意見募集稿)」につきまして、日本国ビジネス機械・情報システム産業協会では、会員からの意見募集を行い、協会内の組織である知的財産委員会にて検討を行いました。その結果として以下の修正意見を提出させていただきます。是非ともご検討の程、よろしくお願い申し上げます。

日本国ビジネス機械・情報システム産業協会

# 国家発展改革委員会「知識財産権濫用に関する独占禁止指南（意見募集稿）」意見募集表

会社名：一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

担当者：知的財産委員会事務局 千島英朗

条項番号	修正提案 赤字下線＝追加要望 青字取消し線＝削除要望 青字太字＝修正要望	修正理由
一. (三) 2.	<p>2. 競争の排除、制限に関する分析</p> <p>知的財産権の権利行使が競争を排除、制限するか否かの分析については、次に掲げる要素を考慮することができる。</p> <p>(1) 権利行使が関連市場に存在する競争及び潜在的な競争を <u>不当に</u> 除去又は阻害する</p> <p>(2) 権利行使がコア技術などの資源を制御し、関連市場への参入の障害の可能性を生む又は高める</p> <p>(3) 権利行使が技術のイノベーション、普及及び発展を阻害する</p> <p>(4) 権利行使が関連する産業の発展を阻害する</p> <p>(5) 権利行使が生産量、エリア、消費者などを制限する時間、範囲及び度合い</p>	<p>知的財産権を濫用して競争を制限するかの分析に当たり、知的財産権の権利行使による差し止め請求そのものが競争の制限・排除に当たるとも読めるため、例えば、「不当に」などの用語を追加いただきたい。</p> <p>また、「独占禁止法の法執行の透明性を向上させ、市場により一層明確な合理的予測」を持たせるために、考慮要素のみならず、詳細な具体例を示していただきたい。</p>
二. (一) 3.	<p>3. クロスライセンス</p> <p>本ガイドラインでいうクロスライセンスとは、経営者が、各自が有する知的財産権の相互使用を許諾することをいう。</p> <p>クロスライセンスは通常、知的財産権の許諾コストの削減、イノベーションの奨励、知的財産権の実施を促す。ただし、クロスライセンスも競争を排除、制限するおそれがあり、具体的な分析を行う場合、次に掲げる要素を考慮しなければならない。</p> <p>(1) クロスライセンスが <u>を通じて</u> 排他的許諾となっていないか <u>(例えば、他の事業者にはライセンスを行わない事を明示的に取り決める、など)</u></p>	<p>そもそも知的財産権が排他的権利であることから、あらゆるクロスライセンスが(1)～(3)に該当するように読めてしまうため、クロスライセンスを「通じて」と修正いただきたい。</p> <p>また、(1)及び(3)について、趣旨明確にするため、該当する場合の例示をしていただきたい。</p>

	<p>(2) クロスライセンスが、<u>を通じて</u> 第三者が関連市場に参入する際の障壁を構成していないか</p> <p>(3) クロスライセンスが、<u>を通じて</u> 川下の関連商品市場の競争を阻害していないか <u>(例えば、価格制限を行う、など)</u></p>	
<p>二. (二)</p> <p>3.</p>	<p>3. 不爭義務条項</p> <p>本ガイドラインにおいて不爭義務条項とは、許諾者が被許諾者に対して、その知的財産権の有効性に異議を申し立ててはならないことを求めることをいう。</p> <p>不爭義務条項は通常、濫訴を避け、取引効率を高めることができる。ただし、不爭義務条項は被許諾者が知的財産権の有効性を疑う権利を制限し、競争を排除、制限するおそれがあり、具体的な分析を行う場合、次に掲げる要素を考慮しなければならない。</p> <p>(1) 許諾者が、すべての被許諾者がその知的財産権の有効性に疑問を持たないように要求していないか</p> <p>(2) 不爭義務条項が及ぶ知的財産権は <u>有償実施許諾、又は</u> 川下市場に参入する障害を構築していないか</p> <p>(3) 不爭義務条項が及ぶ知的財産権がその他の競争性知的財産権の実施を阻害していないか</p> <p>(4) 許諾者が間違った又は誤認性を有する情報によって知的財産権を取得していないか</p> <p>(5) 許諾者が不正な手段によって、被許諾者に不爭義務条項を受け入れさせていないか</p>	<p>実施許諾が有償であるか無償であるかは不爭義務条項による競争排除、制限とは無関係と考えられるので、削除いただきたい。</p>
<p>二. (二)</p> <p>4.</p>	<p>4. その他、制限条項</p> <p>競争関係を有さない経営者が合意に達した知的財産権に関する取り決めには、次に掲げる制限条項が含まれるおそれがある。</p> <p>(1) <u>被許諾者が特定分野において知的財産権を使用することを制限する</u></p>	<p>前段(1)に関して、使用分野を絞って実施許諾することがただちに競争排除、制限とする判断されるということであれば同意し難い。知的財産権の保護により、発明創造が奨励され科学技術の進歩及び革新が促されているという基本的考えに立脚して判断がなされ</p>

	<p>(2) 被許諾者が知的財産権を利用して提供する製品の販売ルート、販売範囲又は取引対象を制限する</p> <p>(3) 被許諾者が知的財産権を利用して生産又は販売する製品の数量を制限する</p> <p>(4) 被許諾者が第三者から実施許諾を得て、その競争力のある知的財産権を使用することを禁止する、あるいは被許諾者が許諾者の製品と相競争する製品の生産、販売を禁止する</p> <p>上述の制限条項は通常、商業の合理性を有し、効率を高め、知的財産権の実施を促す。ただし、特定の状況下においては、上述の制限条項が競争を排除、制限するおそれがあり、具体的な分析を行う場合、次に掲げる要素を考慮しなければならない。</p> <p>(1) 制限の内容、度合い及び実施方法</p> <p>(2) 知的財産権を利用して提供する商品の特徴</p> <p>(3) 競争性の知的財産権を有するその他の経営者が同一又は類似の制限を実施していないか</p> <p>(4) 許諾者の知的財産権の実施と発展を促していないか</p> <p>(5) その他の知的財産権の実施と発展を阻害していないか</p> <p>競争関係を有する経営者が知的財産に関する取り決めにおいて達成した独占的グラントバック、不爭義務条項、及びその他制限条項が競争を排除、制限していないか否かを分析する場合、上述の関連する分析要素を同様に考慮することができる。ただし、上述の知的財産権に関する取り決めの経営者が競争関係を有するという重要な要素を十分に考慮しなければならない。もし、上述の取り決めが実質的に「独占禁止法」第 13 条第 1 項第（一）号から（五）号で規定されている独占協定を構成するのであれば、「独占禁止法」</p>	<p>ることを望む。</p>
--	--	----------------

	の上述の独占協定の規定を適用する。	
三（二） 2.	<p>2. 実施許諾の拒絶</p> <p>実施許諾の拒絶は、経営者が知的財産権を行使する一種の表現形式であり、一般的な状況においては、経営者は競争相手又は取引相手との取引を行う義務を負っていない。ただし、市場支配的地位を有する経営者が正当な理由なく実施許諾を拒絶すれば、関連市場における競争が排除、制限され、消費者又は公共の利益が損なわれるおそれがある。</p> <p>実施許諾の拒絶に正当な理由があるか否かの分析については、個別のケースの具体的な状況に基づき、次に掲げる要素を考慮することができる。</p> <p>（1）関連する知的財産権が負担している実施許諾・承諾</p> <p>（2）<b>関連する知的財産権が関連市場への参入に必須のものであるか、及び合理的に獲得できる代替する知的財産権が存在しているか</b></p> <p>（3）実施許諾に関連する知的財産権が経営者のイノベーションに与える影響及びその度合い</p> <p>（4）被拒絶者に合理的な使用許諾料を支払う意思及び能力が欠如していないか</p> <p>（5）被拒絶者に知的財産権の正当な使用又は製品の安全及び性能を確保するために必要な品質、技術保障が欠如していないか</p> <p>（6）被拒絶者が知的財産権を利用することが省エネ、環境保全などの社会的な公共利益に不利な影響をもたらすか否か。</p>	<p>高いシェアを有する企業が基本特許を所有しているとき、当該特許の独占権の行使がただちに制限されると判断されるということであれば同意し難い。知的財産権の保護により、発明創造が奨励され科学技術の進歩及び革新が促されているという基本的考えに立脚して判断がなされることを望む。</p>